



川内たかゆき後援会便り

元気みなぎる通信

2020 秋号

川内たかゆき後援会

〒889-1802 宮崎県都城市山之口町花木 2253-6
TEL・FAX：0986（77）5298

《残り任期1年半 コロナに負けない元気な都城目指して！》

錦秋の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、川内たかゆき並びに後援会に対し、多くの御指導、御支援を賜り厚く御礼申し上げます。

7月に初めて新型コロナウイルスの感染者が都城で確認され、地元経済への影響は計り知れないものがあります。活動が制限される日が続き、心苦しい毎日をお送りのことと存じます。その中で、市民の皆様が冷静に日常をお送りいただき、感謝いたします。本市では、教育機関や医療機関等にマスクや消毒液、防護服などを適宜支援しており、コロナ禍の支援策もできる範囲でおこなっております。ワクチン接種まで、社会情勢の好転は見通せないままですが、少しずつ皆様とともに日常を取り戻していきたいと思っております。

これまで以上に、元気みなぎる都城を目指し走り、動き、伺ってまいります。宜しくお願いします！

都城市議会議員 川内 賢幸

【令和元年度都城市歳入歳出決算承認】

9月定例会（議会）では、通常の一般会計補正予算などの審議とは別に前年度の決算審査を行います。

●決算概要

令和元年度の決算規模は、一般会計予算額「1079億74119千円」に対し、歳入決算額「1036億57395千円」、歳出予算「1012億24353千円」となり、**14億32192千円の黒字（対前年度比5.0%）**という結果でした。

●財政力指数

「財政力指数」とは、地方公共団体の財政力を示す指数であり、**財政力指数が高いほど自主財源割合が高くなり、財政力が強い団体となります。「1」に近い程財源に余裕があることとなります。**

令和元年度の財政力指数は「**0.541**」で、前年度と比較すると**0.006ポイント上昇し改善**しているという結果でした。

●経常収支比率

「経常収支比率」は、毎年の収入（地方税、普通交付税など）に対し、経常的経費（人件費、扶助費など）決まった支出が占める割合であり、80%を超える場合は、財政構造が弾力性を失いつつあるとされています。**適性は80%以下。**

令和元年度の経常収支比率は、**95.5%**で、前年度と比較すると**2.1ポイント上昇し悪化**しているという結果でした。

●公債費負担比率

「公債費負担比率」は、公債費充当一般財源（地方債の元利償還金等の公債費に充当された一般財源）が一般財源総額に対し、どの程度の割合になっているかを示す指標であり、**15%が警戒ライン、20%が危険ライン**とされています。

令和元年度は、**14.7%**で、前年度より**0.2ポイント減少し改善**しているという結果でした。

●市債の状況

一般会計における市債の令和元年度末現在高は**712億2570万円**で、前年度と比較すると**6億6124万3千円減少**しております。これにより、市民一人当たりの市債残高はおよそ**43万5711円（前年比0.4%減少）**となります。ちなみに、令和元年度末の国の借金は1114兆5400億円（前年より約11兆円増）であり、国民一人当たり**885万円**となっています。

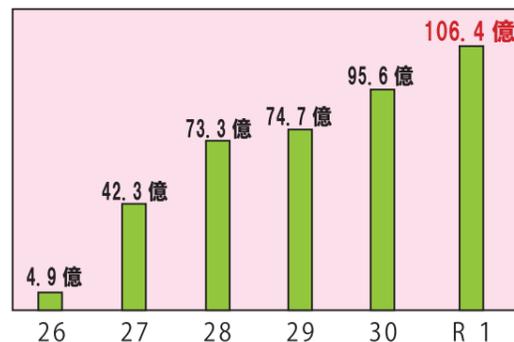
ふるさと納税額（令和元年度） 106億45341千円（過去最高）

令和元年度のふるさと納税額が、過去最高となる106億45341千円となりました。50万件を超える寄附件数となり、全国第2位という結果です。

ふるさと納税は、当初予算ベースで200を超える事業に充てられています。

ふるさと納税の増加により、本市の歳入に占める自主財源比率は、昨年度の50.4%から0.3%増の50.7%となっています。県内9市の平成30年度自主財源比率の平均は37.2%であることから、本市の自主財源比率の高さが分かります。

この自主財源比率は、ふるさと納税を見直した平成26年度から一貫して上昇しており、健全な市政運営につながっています。



新型コロナウイルス感染症 第3波に備えましょう！

誹謗中傷せず、皆で支え合い、励まし合ってコロナを乗り越えましょう！！

7月25日に本市1例目の感染が、確認されてから9月までのおよそ1ヶ月の間に、感染者数は42例まで増えました。幸い死亡者はでていません。皆様の冷静な対応に感謝します。今後、冬にかけウィルスの強毒化が心配されており、第3波にも十分な警戒が必要です。

一方で、自粛が続く中で地域経済は疲弊してきているのも事実です。ワクチンが打てるようになるまでは、ウィズコロナ社会を生きていかねばなりません。いつでも、どこでも、だれもが、感染しうる病気です。

手洗い、うがい等に努め、新しい生活様式を取り入れ共に乗り切ってください！御協力をお願いします！！

☆コロナ対策でふるさと応援券を発行（市独自）/プレミアム付きスマイル商品券販売

9月に入り、コロナ対策事業として全市民に「ふるさと応援券」を発送しました。

大人1人5000円、子ども（高校3年生以下）1万円の内容となっています。

また、国県の補助金を活用した「プレミアム付き商品券」を抽選販売。プレミアム率は30%で1セットあたり1万円（1万3千円分）となっており10万セット販売です。購入希望の方は10月30日（金）までに申込して下さい。

当選者には11月中旬以降に引換券を送付。郵便局にて引き換えできます。

これらの券を使用できる対象店舗は9月30日時点で1074店舗となっています。

最新情報は市のホームページで確認できます。取扱店の張り紙が目印です。

【問い合わせ】都城市プレミアム付スマイル商品券事務局 電話 23-8078(直通)



←こちらからのQRコードから最新店舗確認できます。

《9月議会一般質問》

◎新型コロナウイルス感染症への対応について

- ・市長メッセージの動画配信と手話通訳の表示について提案。
- ・公共工事の工期へ柔軟な対応を提案。
- ・屋内競技の練習について、個別の対応を提案。
- ・地域実情に即した、イベント等開催方針の策定を提案。

↓
コロナへの不安低減や不確実な情報拡散を防ぐには、市から確実な情報発信が必要。イベント等の開催についても、ウィズコロナで進むためにも国の基準を元に都城独自基準が求められている。

◎子ども宅食への支援について

- ・国の支援対象児童等見守り強化事業への申請を提案。
- ・フードバンク事業の確立と効率的運営の支援を提案。
- ・民間団体とのより一層の連携強化を提案。
- ・子どもの貧困対策に向け、本腰を入れた対応を提案。

↓
日本で貧困に苦しむ子どもは7人に1人。都城に当てはめれば4242人となる。現在、民間団体が毎月100世帯に食材を支援している。今なら助けられる子どもたちがいる。解決に向け一刻も早い対応が必要。都城はできる。

◎ごみ収集の在り方について

- ・プラスチックごみ一括回収に向けた環境整備を提案。
- ・高齢者等のふれあい収集について、制度化とごみ出し支援ボランティアへのポイント制導入を提案。

↓
2022年度を目標に、国はプラスチックごみの一括回収を始める。本市では、燃やせるごみのうちリサイクルするものが出てくる。高齢者等はより一層負担が増えるため、資源ごみステーション新增設やごみ出し支援が必要になる。



使ってください！川内たかゆき！！ 皆様の困りごと、疑問に思っていること、要望等お気軽にお問い合わせください ☺

080-5602-4463（本人直通）



主競技場 フィールド俯瞰イメージ

(新) 県立陸上競技場

(新) 県立陸上競技場の工事が着々と進んでいます。山之口運動公園の施設の解体が終わり、8月から造成工事が始まっています。2021年度にかけて、敷地東側の造成工事を、2024年度にかけて敷地西側の造成工事を行っていきます。2024年度の施設完成に向けいよいよ本格的な工事に入ります。当初、宮崎国体は2026年度開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で2020年度鹿児島大会が、2023年度に延期されることが決定濃厚となり、宮崎大会は2027年度となる見込みです。整備スケジュールに変更はありません。

また、国民体育大会は2024年度の佐賀大会より「国民スポーツ大会」へ名称が変わります。

(今後の国体開催予定)

2021年三重県 → 2022年栃木県 → 2023年鹿児島県 → 2024年佐賀県
→ 2025年滋賀県 → 2026年青森県 → **2027年宮崎県**

◎山之口駅、建替えに向け動き出す！



2027年度の宮崎国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会に向けて、会場となる山之口にある山之口駅の建替え及び周辺の開発に向け、動き始めました。

2020年度は、駅等の整備に向けた基本計画策定業務が行われています。駅の規模、バスの乗り入れ、周辺の利便性向上など、これからの利活用に向けた内容も含め、検討が始まっています。

国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会以降も、県立陸上競技場を活用した催しが継続して開催予定です。利用者の方々の利便性を向上するとともに、住民にとっては中核となる大事な施設となります。

ともに、住民にとっては中核となる大事な施設となります。



▲俯瞰イメージと同じ方角から見た風景。旧多目的広場。



中心市街地中核施設 センター・シティ複合施設イメージ

中心市街地複合施設ついに決定！



中心市街地中核施設のうち、民間の(株)センター・シティが運営する複合施設がついに決定しました。市立図書館などの完成から遅れること2年以上、ようやく時が進みます。

今回建設される複合施設は、**1階スーパー（3社テナント方式）、2階オフィステナント、3階レストラン、4階～7階ホテル**とする複合施設です。事業主体は(株)センター・シティ、ホテル運営は小田急電鉄を株主とするUDS(株)へ運営委託する方向で協議中。

また、施設の完成に伴い、都城商工会議所は、複合施設2階へ移転予定です。

令和3年2月から着工し、令和4年開業を目指します。

◎やまのくち保育所、完成に向け工事順調

令和3年4月開所に向け、工事が順調に進んでいます。現在、山之口中核保育所、山之口ふもと保育所、山之口乳児保育所の3ヶ所運営されていますが、これらを1ヶ所に統合するものです。場所は花木地区体育館前。

これに伴い、9月議会で条例の一部改正を行い、施設の正式名称が「都城市やまのくち保育所」に決定しました。

新保育所の認可定員は90名となり、これまでの3ヶ所の総定員数130名より少なくなります。子どもに対しての保育士数は増えるため、これまで以上に細やかな対応も期待できます。

さらに、0歳児からの一貫した保育が可能となり、子育て支援がより手厚いものとなります。



やまのくち保育所（パース図）

